

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	TAKUMI神戸住吉		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	イベントが豊富である。	イベント内容について検討する時間を前もって設け、指導員全員で話し合う機会を作っている。	より満足していただけるプログラムを提供できるよう、日頃から情報収集に努めるとともに、創意工夫を重ねていく。
2	お客様の情報やその日の活動プログラムについて、指導員間で情報共有が十分に行われている。	一日二回、支援開始前と終了後に全員でミーティングを実施し、小さなことでも共有・記録するようにしている。	十分な時間を確保できているが、その反面終業時間を超えてしまうこともあるため、より効率的にできる方法を模索していく。
3	事業所の広さを活用できている。	お子さまの要望・状況に合わせてパーテーションを用いて仕切り、運動量を確保しながらも安全に活動を行えるように取り組んでいる。	今後もお子さまの状況に合わせて、楽しくかつ安全に運動に取り組めるよう臨機応変に対応していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域や支援センター等、外部との繋がりが薄い。	日常的に外部に赴く機会が少なく、時間も足りない。	より積極的に周知活動を行っていく。 説明会や協議会等の集まりに積極的に参加する。
2	保護者同士の交流する場がない。	保護者同士で顔を合わす時間が、送迎時の限られた時間のみになっている。	保護者会の開催を目標に、準備を進めていく。
3	兄弟・家族への支援の1つとして親子プログラムを実施しているが、その目的や活動内容があまり認知されていない。	保護者への周知が不十分なまま進んでいった。また、呼びかけ等のその後のフォローも足りなかった。	次年度開始時に再度保護者へ周知するとともに、参加者を増やし定着させていく。その際、目的・効果等も丁寧に説明していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 TAKUMI神戸住吉

公表日 2025年 2月 21日

利用児童数 22名

回収数 6名

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	6					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	5			1	入口やトイレなど段差があり、完全なバリアフリーとはいえないと思われる。	ありがとうございます。 現状、配慮の必要な方がおられないため用意はないですが、今後必要に応じて対応できますよう努めて参ります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6				プログラムが少しルールが複雑で理解できていないことが多いが、子どもに個別に丁寧に教えてくださっている。	ありがとうございます。 引き続き、職員の専門性の向上に努めてまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5			1		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6					
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1		2	3	通所してまだ2か月半程なのでわからない。	ありがとうございます。 地域の子どもたちとの交流は現在のところありませんが、もし機会がございましたらお知らせさせていただきます。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3		1	2		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	6					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1		1	4	通所してまだ2か月半程なのでわからない。	ありがとうございます。 現在のところ保護者会の開催はありませんが、必要に応じて開催できるよう準備を進めてまいりたいと考えております。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	5			1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5	1				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4			2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4			2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6					
	29	事業所の支援に満足していますか。	6					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		TAKUMI神戸住吉				公表日		2025年 2月 21日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		十分なスペースがあり、クラスの中でもそれぞれの能力に合った運動を分けて行うことができる。				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	現在配置されている職員の数に則った定員で運営を行っている。	来所・退所が重なる時間は手薄になる。現状は足りているが、開所日を増やすと足りない。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1	角など危険が予測できる部分に対してクッション材などを貼り、バリアフリー化を図っている。	玄関・トイレ前に階段がある。現状配慮が必要な方はいらっしゃらないが配慮が必要な方がいらっしゃる場合に対応を検討していく。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日掃除を行い、消毒や用具の整備などを行っている。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		更衣室や面談室があり、着替えやクールダウンの際に使用できるようになっている。				
業務 改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		ミーティング時間を就業前終業後ととり、その日の目標、その日の出来事を業務改善に向けて話し合っている。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		アンケートでのご意見を真摯に受け止めると共に、可能な範囲で最大限の業務改善を図っていく。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		職員でミーティングを行う機会を多く設定し、日々の業務やイベントなどすべてのスタッフが話し合いに参加できるようにし、業務改善に努めている。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		外部評価は行っていない。今後必要に応じて検討する。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1	外部研修へ参加する機会があれば積極的に研修に参加させていただいている。また、社内研修も行っており、職員のスキルアップを図っている。				
適切 な 支 援 の 提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	1	支援プログラムを適切に作成し、公表している。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		日々の変化を細かく記録し課題を分析したうえで、保護者と子供双方のニーズ確認を行い支援計画を立てている。				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		支援計画書を立てる際には、すべてのスタッフから意見を聞き、個々の課題や強みを検討する場を設けている。				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		支援計画書を立てた際には必ず全員が目を通すよう回覧を回し、確認した人はサインを行い共有漏れがないよう努め、計画に沿った支援を行っている。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	標準化されたフォーマルなアセスメントツールとインフォーマルなアセスメントツールを使用し適応行動の状況把握に努めている。				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		個別支援計画書にすべての項目の記載があり、適切に支援目標を設定されている。				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	イベント内容について検討する時間を前もって設け、指導員全員で話し合う機会を作っている。				

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		担当制ではないため、運動プログラムに偏りが無い。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		それぞれのこどもの状況に応じて個別活動、集団活動とを適宜組み合わせる個別支援計画書を作成し支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		必ず支援開始前に打ち合わせが行われており、その日の利用者の特性・対応についての説明があるので新人の方でもわかりやすく心強い。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		些細なことでも共有し、その日のうちに記録するようにしている。また、すべてのスタッフが意見を言いやすい環境ができています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		小さなことでもその日のうちに記録に残すようにしている。支援の内容に対して検証し、随時改善できるよう話し合っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的にモニタリングを行い、指導員全員で検討・判断している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		お子さまの様子について、予め職員同士意見を出し合ったうえで会議に参加するようにしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	3		そのような体制は、仕組みとしてない。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	3		情報交換を行っていきたくはいるが、保育園などはあまり積極的に対応してもらえないことが多い。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	3		まだまだ地域の理解が追いついていない部分が多く、対応が難しい。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	3		支援センターとの連携を取っていきたくはいるが、機会を作っていくことに難しさを感じる。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		5		地域との交流の場はまだまだ取れていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			ご利用の際に毎回その日のお子さまの様子や課題をお伝えするとともに、ご家庭でのご様子もお聞きしている。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1		親子プログラムを実施し、その日のプログラムについて効果をお伝えしたり、家庭でできる活動を提案したりしている。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1		契約の際など運営規定、利用者負担などについてご説明させていただいている。また、求められた際にお答えしている。支援プログラムについても面談時や計画書更新時にご説明させていただいて	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			ご家族さんへの意思確認だけではなく、こどもも本人の意向確認も必ず行っており、計画書に反映させている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		個別支援計画書を作成後、保護者の方にご説明させていただき、同意を必ず得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		面談を行う機会を設けさせていただいており、ご相談にのる機会を作っている。また、日々の会話から悩みが見受けられた場合別途面談のご提案をさせていただいている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5			兄弟同士の交流はあるが、保護者同士の交流の機会を設置するには至っていない。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	1	速やかに対応することを心掛けており、職員全体で相談や申し入れに対応できるよう話し合う場を設けている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		お便りの発行やLINEを用いて情報を発信している。また、教室内にもポスターを掲示している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		鍵付きのロッカーに保管しており、取り扱いには十分に留意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		ハンドサインや絵カード等を活用しながらコミュニケーションを図るようにしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5			地域との交流はできていない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		定期的に職員全員でマニュアルの読み合わせ・訓練を実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		定期的に避難訓練や資料の読み合わせ等を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	1	契約時にお子さまのプロフィールをご記入いただき、ご利用までに確認するようにしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	3	プロフィールなどでアレルギーの有無を把握している。	アレルギーのある子どもについては、基本的に食物を扱うことがない為把握のみに努めている。また、医師の指示書がない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		毎日、機器の安全確認を行っている。また、定期的に避難訓練も実施している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		安全計画を作成し、契約時に保護者へ取り組みなどをご説明させていただくとともに、保護者の方が手に取れる場所に掲示してある。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		些細な出来事でも記録に残し、共有・検討するようにしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		年間のなかでスケジュールを組み、定期的に研修を実施している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		保護者に書面と合わせて説明を行っており、個別支援計画書にも記載している。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	TAKUMI神戸住吉		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	イベントが豊富である。	イベント内容について検討する時間を前もって設け、指導員全員で話し合う機会を作っている。	より満足していただけるプログラムを提供できるよう、日頃から情報収集に努めるとともに、創意工夫を重ねていく。
2	お子様の情報やその日の活動プログラムについて、指導員間で情報共有が十分に行われている。	一日二回、支援開始前と終了後に全員でミーティングを実施し、小さなことでも共有・記録するようにしている。	十分な時間を確保できているが、その反面終業時間を超えてしまうこともあるため、より効率的にできる方法を模索していく。
3	事業所の広さを活用できている。	お子さまの要望・状況に合わせてパーテーションを用いて仕切り、運動量を確保しながらも安全に活動を行えるように取り組んでいる。	今後もお子さまの状況に合わせて、楽しくかつ安全に運動に取り組めるよう臨機応変に対応していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域や支援センター等、外部との繋がりが薄い。	日常的に外部に赴く機会が少なく、時間も足りない。	より積極的に周知活動を行っていく。 説明会や協議会等の集まりに積極的に参加する。
2	保護者同士の交流する場がない。	保護者同士で顔を合わす時間が、送迎時の限られた時間のみになっている。	保護者会の開催を目標に、準備を進めていく。
3	兄弟・家族への支援の1つとして親子プログラムを実施しているが、その目的や活動内容があまり認知されていない。	保護者への周知が不十分なまま進んでいった。また、呼びかけ等のその後のフォローも足りなかった。	次年度開始時に再度保護者へ周知するとともに、参加者を増やし定着させていく。その際、目的・効果等も丁寧に説明していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 TAKUMI神戸住吉

公表日 2025年 2月 21日

利用児童数 34名

回収数 17名

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	17					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	16	1				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16	1				
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14	3				
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	17					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14			3		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16			1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	17				子どもが自分から参加したくなるような活動が多く、助かります。	ありがとうございます。 今後もお楽しみいただける活動を提供できるよう努めてまいります。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3	1	5	8		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	17					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	3	1	3		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	15	2				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	16	1				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16	1				
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	2	4	6		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13	2	1	1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16	1				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14	1		2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	1		2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14			3		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16	1				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15	1		1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	17					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	17					
	29	事業所の支援に満足していますか。	16	1				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	TAKUMI神戸住吉			公表日	2025年 2月 21日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		十分なスペースがあり、クラスの中でもそれぞれの能力に合わせて分けて運動を行うことができる。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	現在配置されている職員の数に則った定員で運営を行っている。	来所・退所が重なる時間は手薄になる。現状は足りているが、開所日を増やすと足りない。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1	角など危険が予測できる部分に対してクッション材などを貼り、バリアフリー化を図っている。	トイレ前に階段がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日掃除を行い、消毒や用具の整備などを行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		更衣室や面談室があり、着替えやクールダウンの際に使用できるようになっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		ミーティング時間を就業前終業後ととり、その日の目標、その日の出来事を業務改善に向けて話し合っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		アンケートでのご意見を真摯に受け止めると共に、可能な範囲で最大限の業務改善を図っていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		職員でミーティングを行う機会を多く設定し、日々の業務やイベントなどすべてのスタッフが話し合いに参加できるようにし、業務改善に努めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5		外部評価は行っていない。今後必要に応じて検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1	外部研修へ参加する機会があれば積極的に研修に参加させていただいている。また、社内研修もっており、職員のスキルアップを図っている。	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	1	支援プログラムを適切に作成し、公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		日々の変化を細かく記録し課題を分析したうえで、保護者と子供双方のニーズ確認を行い支援計画を立てている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		支援計画書を立てる際には、すべてのスタッフから意見を聞き、個々の課題や強みを検討する場を設けている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		支援計画書を立てた際には必ず全員が目を通すよう回覧を回し、確認した人はサインを行い共有漏れがないよう努め、計画に沿った支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	標準化されたフォーマルなアセスメントツールとインフォーマルなアセスメントツールを使用し適応行動の状況把握に努めている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		個別支援計画書にすべての項目の記載があり、適切に支援目標を設定されている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	イベント内容について検討する時間を前もって設け、指導員全員で話し合う機会を作っている。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		担当制ではないため、運動プログラムに偏りが無い。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		それぞれのこどもの状況に応じて個別活動、集団活動とを適宜組み合わせ個別支援計画書を作成し支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎日必ずミーティングを行い、その日の各クラス担当者が活動内容・役割分担について共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		些細なことでも共有し、その日のうちに記録するようにしている。また、すべてのスタッフが意見を言いやすい環境ができています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		小さなことでもその日のうちに記録に残すようにしている。支援の内容に対して検証し、随時改善できるよう話し合っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的にモニタリングを行い、指導員全員で検討・判断している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		お子さま一人ひとりのサービス計画に合わせて、基本的活動を複数合わせて行っている。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		サーキットを始める場所や順番等をお子さま自身で決める機会を適宜設けている。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	1	お子さまの様子について、予め職員同士意見を出し合ったうえで会議に参加するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	4		利用者が通っている学校の教諭等、希望がある方のみ連携を実施。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	2	3		学校と情報共有する場があまり持っていない。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	3		就学前になると情報共有する機会の確保が難しくなってしまう。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	4		学校を卒業するまで在籍される方がいない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	3		支援センターとの連携を取っていきたくと考えているが、機会を作っていくことに難しさを感じる。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		5		地域との連携が難しい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	3		以前は参加していたが、予定がつかず途切れてしまったため、1月より再び参加を考えている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			ご利用の際に毎回その日のお子さまの様子や課題をお伝えするとともに、ご家庭でのご様子もお聞きしている。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5			親子プログラムを実施し、その日のプログラムについて効果をお伝えしたり、家庭でできる活動を提案したりしている。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1		契約の際など運営規定、利用者負担などについてご説明させていただいている。また、求められた際にお答えしている。支援プログラムについても面談時や計画書更新時にご説明させていただいて	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			ご家族さんへの意思確認だけではなく、こども本人の意向確認も必ず行っており、計画書に反映させている。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			個別支援計画書を作成後、保護者の方にご説明させていただき、同意を必ず得ている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		面談を行う機会を設けていただいております、ご相談にのる機会を作っている。また、日々の会話から悩みが見受けられた場合別途面談のご提案をさせていただいている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	4		保護者同士が交流する機会の設置には至っていない。 保護者会を開催したいと考えてはいる。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	2	速やかに対応することを心掛けており、職員全体で相談や申し入れに対応できるよう話し合う場を設けている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		お便りの発行やLINEを用いて情報を発信している。また、教室にもポスターを掲示している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		鍵付きのロッカーに保管している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		ハンドサインや絵カード等の視覚支援も活用しながらコミュニケーションを図るようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		地域との交流はできていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		定期的に職員全員でマニュアルの読み合わせ・訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		定期的に避難訓練や資料の読み合わせ等を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	1	契約時にお子さまのプロフィールをご記入いただき、ご利用までに確認するようにしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	3	プロフィールなどでアレルギーの有無を把握している。	アレルギーのある子どもについては、基本的に食物を扱うことがない為把握のみに努めている。また、医師の指示書がない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		毎日、機器の安全確認を行っている。また、定期的に避難訓練も実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		安全計画を作成し、契約時に保護者へ取り組みなどをご説明させていただくとともに、保護者の方が手に取れる場所に掲示してある。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		些細な出来事でも記録に残し、共有・検討するようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	1	年間のなかでスケジュールを組み、定期的に研修を実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		保護者に書面と合わせて説明を行っており、個別支援計画書にも記載している。		